

基本情報 ■時代：江戸時代 ■寸法：縦28.4cm 横20cm



この資料のここがすごい!!

本館収蔵の『奥州仙台萩』と同様、伊達騒動を扱った書物のうちのひとつ!

お気に入りポイント

くずし字がわかりやすく古文書に慣れていない人でも、読みやすい!!

学芸研究員の目

伊達騒動など藩や幕府のスクランダルを題材にした作品は、数多くあります。こうした作品は、事実を踏まえ作者の解釈などが加えられています。当時の人々の興味関心を知ることのできる貴重な資料です。

学芸研究員
佐藤 由浩

仙台藩のお家騒動を題材にした書物

『伊達秘録』とは

『伊達秘録』は江戸時代前期における伊達家の御家騒動である伊達騒動について書かれた、**実録物**というジャンルの書物である。本資料はその写本で全5冊ある。

伊達騒動は、黒田騒動、加賀騒動または仙石騒動とともに三大御家騒動と呼ばれるほど大きな騒動であった。仙台藩の騒動については実録物が多く書かれており、歌舞伎狂言『伽羅先代萩(めいばくせんたいはぎ)』や山本周五郎の小説『樞(もみ)ノ木は残った』等の有名な作品の題材にもなっている。

伊達騒動に関わる2つの事件

伊達騒動は、原田甲斐宗輔による伊達安芸宗重刃傷事件である寛文(かんぶん)事件を指すのが一般的である。しかし実際は、刃傷事件以前に起こった綱宗隠居事件を含めた騒動である。

最初の騒動は仙台藩3代藩主綱宗隠居事件といい、綱宗が遊興放蕩三昧であったため家臣と親族大名が連合し、幕府に綱宗の隠居と、嫡子でわずか2歳の亀千代(後の綱村)の家督相続を願い出た。その結果、幕府の命により綱宗は21歳で強制隠居させられ、4代藩主に亀千代が就任した。

2番目の騒動は寛文(かんぶん)事件といい、一般に伊達騒動と呼ばれるのは、この寛文事件を指す。綱宗の強制隠居後、幼藩主亀千代

の後見役である**伊達宗勝**^{*2}が実権を握り権勢を振るった。それに反発した、伊達安芸が宗勝派の専横を幕府に上訴した。こうして、伊達宗勝・原田甲斐と伊達安芸らが対立する形となった。

その結果、大老酒井忠清邸で原田甲斐によって引き起こされた伊達安芸刃傷事件にまで発展することとなった。この事件に対する責任を藩主綱村は問われなかった。

実際に責任を追及されたのは、首謀者である原田甲斐の一族や藩主の後見役であった伊達宗勝、田村宗良らであった。特に事件の中心人物であった原田甲斐の息子たちは切腹を命じられ、宗勝は高知藩主山内豊昌へお預けとなった。もう一方の後見役である田村宗良は責務を全うしなかったことに対する責任を追及され、閉門の処分となった。

学芸研究員 佐藤 由浩
実習生 山田 美咲

参考文献

菊田定郷『仙台人名大辞典』歴史図書社 1974
仙台市史編さん委員会編『仙台市史 通史編4 近世2』仙台市 2003

用語解説 詳しくはP26へ

*1 実録物

*2 伊達宗勝